

中学校・道徳の内容項目の解説

尊敬・感謝

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。	尊敬・感謝

●解説

全体的な理解	人間は、互いに助け合い、協力し合って生きている。この互いの助け合いや協力を根底で支えているのは、互いの感謝の心である。その意味で、感謝の心は、潤いのある人間関係を築く上で欠かすことのできない大切なものである。感謝の心は、他の人が自分のことを大切に思ってくれていることに触れ、相手の行為をいわば心の贈り物としてありがたいと感じたときに起こる人間の自然な感情である。
発達的な観点	中学生の時期は、自立心の強まりとともに、日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの人々の善意や支えに気付く一方で、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさも感じている。例えば、自分が困ったときや悩んでいたときに助言してもらったり、具体的に支援してもらった場合には、すぐに感謝の気持ちを伝えることができるが、自分の存在に深くかかわることになると言葉や行動としてうまく感謝の気持ちを表現できないこともある。
指導の着眼点	指導に当たっては、まず、多くの人々の善意や支えにより、日々の生活が成り立ち、現在の自分があることを踏まえ、それに対する感動や喜びが自ずと感謝の心となって表出されるものであることについての理解を深めることが必要である。そして、自分の心の中にある感謝の気持ちを素直に表現し、それが相手の心に届くことによって潤いのある人間関係が築かれるものであることを自覚させることが大切である。他者の親愛なる善意に対して感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、今自分が他者に対して何をもって応答することができるのかを考えさせ、結果として自己と他者との心の絆をより強くするものとなる。なお、感謝の心は、他の人とのかかわりに始まり、多くの社会の人々への感謝、さらには自然の恵みへの感謝と次第に広がっていくものである。したがって、4の視点や3の視点との関連を図りつつ指導する必要がある。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕	
低学年	(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	感謝
中学年	(4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。	尊敬・感謝
高学年	(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。	尊敬・感謝